

## ■効果の見える治水事業

### 高知県 和食ダム建設事業

高知県安芸土木事務所 和食ダム建設事務所

所長 矢野 義和



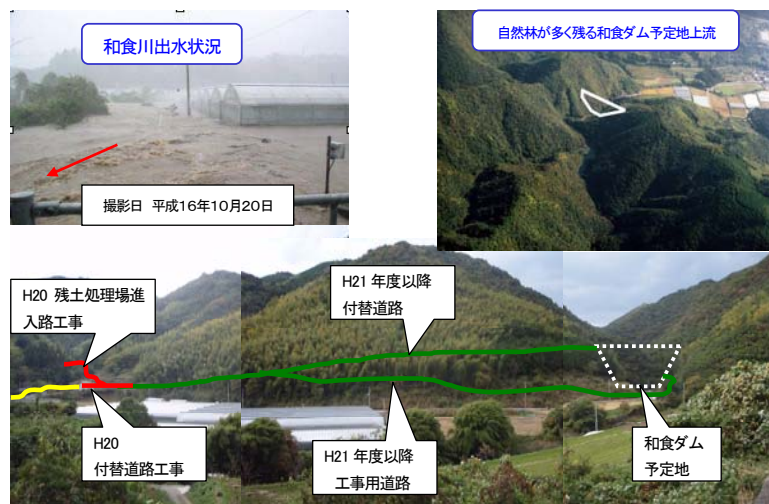
和食川は、高知県安芸郡芸西村に位置し、その源を標高 430mの山地に発し、土佐湾に注ぐ流域面積 22.77km<sup>2</sup>、流路延長 6.3kmの2級河川で、中・下流域では農用地及び住宅地が平野部の大部分を占めています。また、同村の基幹産業である施設園芸農業における農業用水及び住宅地等への水道用水の水源として重要な役割を担っています。

しかしながら、和食川流域は年平均降水量が約2,000mmであり、そのうち大部分が梅雨期や台風時に集中していることから、この時期に過去幾多の洪水被害を被ってきました。特に平成元年8月の豪雨では和食川沿いに広がる農地や下流部東側の和食地区の住宅地などを中心に、面積約 245ha、家屋 73 戸に及ぶ浸水被害が発生し、園芸施設も大きな打撃を受けました。近年においても平成 10 年、平成 16 年、昨年と豪雨による浸水の被害が発生しています。

このような状況のなか、平成 15 年に和食川総合開発事業として、和食ダムの建設に着手しました。和食ダムは、和食川上流の芸西村西谷に建設するもので、重力式コンクリートダムとして高さ 56.0m、堤頂長 124.0m、総貯水量 730,000m<sup>3</sup>、有効貯水容量 680,000m<sup>3</sup>で、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給を目的とするものです。

本ダムは地理的にも芸西村中心部や国道 55 号から至近距離にあり、ダム貯水地を含めた周辺一帯は自然林が多く残り、昆虫や野生動物などの生態系も豊かであります。また、第三次芸西村総合振興計画においても和食ダムを活用した人と動植物が共存できる環境整備が進められており、地元村民のみならず県民のやすらぎの場としての利用が十分期待できるため、芸西村が整備している自然公園等と一体となったダム整備を進めています。

現在、本体着工に向け用地買収と併行して工事用道路や付替道路の整備を行っており、平成 21 年度も引き続き整備を実施していく予定です。



## ダムを活かした地域づくり

芸西村長 竹内 強



芸西村は高知県東部に位置し、西部は香南市、東部は安芸市に挟まれ南部は白砂青松の琴ヶ浜森林から太平洋を望む自然豊かで、年中温暖な気候に恵まれています。東西は4km、南北は10kmほどで面積は39.63km<sup>2</sup>、人口4,100人の小さな村です。

本村は、古くから農業・漁業が盛んで、特に農業については、いち早く施設園芸を導入し、温暖な気候を利用したキュウリの促成栽培を行ってきました。昭和40年代後半には、県営事業により平野部の大部分を占める200ha余りのほ場整備事業により土地を集約し、大型のビニールハウスでの本格的なナス・ピーマン等の栽培が始まりました。これにより一大施設園芸産地を築き、中四国でも有数の農家所得が高い村となりました。

他方、本村は二級河川和食川の氾濫で、平成元年の未曾有の豪雨による大災害や平成 10 年、16 年、昨年と最近台風ばかりでなく、温暖化の影響と言われているゲリラ的豪雨等により農地の冠水が頻発して、農家にとっては死活問題となっています。

また、和食川は急峻なため降雨後は直ぐ太平洋に流出し、雨水が地下で涵養されることが少なく、冬場の渇水期はもとより夏場の長期間降雨のない時期にも、渇水により村の簡易水道の給水制限や農家の地下水の枯渇にも、多大な影響を及ぼしています。

このため和食川総合開発事業の一環として、和食川上流に洪水調節や水道水の供給等を目的とした「和食ダム」が高知県によって建設されています。

併せて、当村でダム湛水区域周辺や上流域を山林保全のため買収し、水源涵養林や自然公園などの憩いの場とするダムを活用した地域づくりを進めているところです。

このような状況のなか、治水・利水等の目的達成には、村民の期待の大きい「和食ダム」の早期完成が切望されています。



ナスを収穫する子供たち



野外劇場や海水プールのある琴ヶ浜



施設園芸が盛んな和食川中下流